

言葉の力

通称「ことちか」

令和8年5月14日発行
第8号
福島県教育庁義務教育課

単元を通して身に付けさせたい力を、子どもたちと共有していますか。

(資質・能力の明確化)

【単元を通して身に付けさせたい力のイメージをもたせることが、主体的な学びにつながる】



インタビューをする時に気を付けたいことは、相手が伝えたいことと自分が聞きたいことの中心を落とさずに聞くことです。

今日から学習する単元では、「相手が伝えたいことと自分が聞きたいことの中心を落とさずに聞くことができるようになること」を目標にして学習を進めていきます。

相手が伝えたいことと自分が聞きたいことの中心を落とさずに聞くためには、メモを取ったり質問をしたりして聞くことが必要になりますね。また、相手の話を聞いた後は、聞く前と比べて、自分の考えがどのように変わったのかを振り返ることも大切です。

(※実際の授業では、子どもたちに問いかけて、一緒に整理するなどのやりとりも考えられます。)

今までは、相手の伝えたいことと自分の聞きたいことの中心を落とさずに聞くために、質問の仕方に気を付けたことがなかったな。この学習では、質問の仕方のポイントをしっかりと身に付けたいな。



単元の学習を進めていく上で大切にしてほしいことは、その単元の学習で児童生徒に身に付けさせたい力(資質・能力)を、児童生徒に明示し、児童生徒に単元のゴールのイメージをもたせることです。

教師だけがゴールを知っていて、子どもはどこに向かっているのか分からなければ、「指示されたことだけをしていればいい」という受け身の学びになってしまいます。単元のゴールを子どもたちと共有し、ゴールへ向かう道のりのイメージをもたせることは、「なぜこれを学ぶのか」という目的意識をはっきりさせ、主体的な学びにつながります。

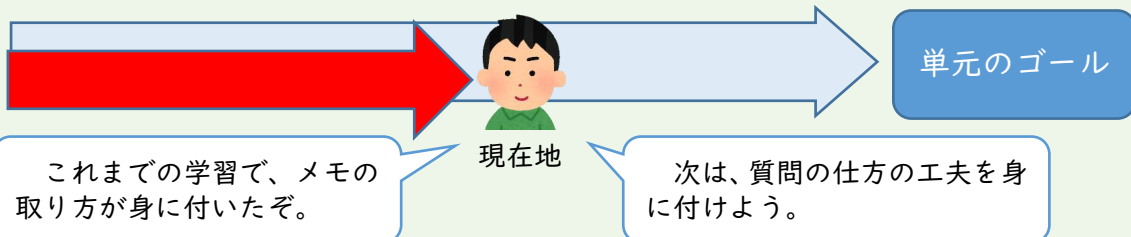
【単元のゴールをイメージしているから、自分の現在地が分かる】

今日の学習では、相手の伝えたいことの中心を詳しく聞くことができなかったな。次は、友達の質問の仕方を参考にして、質問の仕方をもっと工夫してみよう。



単元のゴールが共有されていると、「自分は今どこまでできているか」「次に何をすればいいか」といったことを自分で考えることができるようになります。これは、単元のゴールに向かって自分がどこにいるか(現在地)を捉えているということです。

このように現在地を捉えていると、自己評価の視点が明確になり、自分で学びを調整することにもつながります。



前後の学習とのつながりを確認していますか。(学習の系統性)

【前学年までの学習が、次の資質・能力の獲得の土台となる】

[思考力, 判断力, 表現力等] B 書くこと <<考えの形成, 記述>>

第1学年	第2学年	第3学年
ウ 根拠を明確にしなが ら、 <u>自分の考えが伝 わる文章になるよう に工夫すること。</u>	ウ 根拠の適切さを考 えて説明や具体例を 加えたり、表現の 効果を考 えて描写したりする など、 <u>自分の考え が伝 わる文章になるよう に工夫すること。</u>	ウ 表現の仕方を考 えたり資料を適切に 引用し たりするなど、 <u>自 分の 考えが分 かりやす く伝 わる文 章になる よう に工夫 するこ と。</u>

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編

上の表は、中学校の「書くこと」に関する指導事項です。

内容の系統性に注目すると、各学年の線部「自分の考えが(分かりやすく)伝わる文章になるように工夫すること」が共通であるのに対して、上段にある部の内容は学年ごとにレベルアップしていることが分かります。

国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、資質・能力の定着を図ることを基本としています。

各学年の指導事項を独立したものと捉えず、前後の学年とのつながり(系統性)を意識した指導が重要です。前学年までの学習内容の定着を丁寧に見極め、それを土台として次の学習へとつなげていく視点を常に持ちましょう。



前学年までの学習が、次の資質・能力の獲得の土台となっていきます。

中3

表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど

中2

根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど

中1

根拠を明確にしなが

自分の考えが(分かりやすく)伝わる文章になるように工夫する



学習指導要領解説国語編には、小学校と中学校の接続部分も含め、指導事項の系統性が確認しやすいように表で示されているので、すぐに確認することができます。

○考えの形成, 記述

小学校第5学年及び第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	ウ 根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考 えて描写したりするなど、 自分の考えが伝 わる文章になる よう に工夫する こと。	ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分 かりやす く伝 わる文 章になる よう に工夫 するこ と。

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編

「国語教育だより『言葉の力』」のバックナンバーを御活用ください。

これまでに発行した「国語教育だより『言葉の力』」は、県教育庁義務教育課ホームページに掲載しております。ぜひ御活用ください。

県教育庁義務教育課ホームページ→

